

読む ようすや こうどうを よみとろう (一)
「子どものすきな神さま(一)

名前

子どもの すきな 小さい 神さまが ありました。いつもは 森の中で、うたを うたつたり ふえをふいたりして、小とりやけものと あそんでいましたが、ときどき 人の すんでいる 村へ 出てきて、すきな 子どもたちと あそぶのでした。

けれど この 神さまは、いちども すがたを みせたことが ないので、子どもたちには ちつとも わかりませんでした。

ゆきが どっさり ふつた つぎのあさ、子どもたちは まつ白な のつぱらで あそんでいました。するとひとりの 子どもが、

「ゆきの 上に かおを うつそよう。」

といいました。

そこで 十三人の 子どもたちは、こしを かがめて まるい かおを まつ白な ゆきにおしあてました。そうすると、子どもたちの まるい かおは、一つにならんで ゆきの 上に うつったのでした。

「一、二、三、四、……」

とひとりの 子どもが かおの あとを かぞえてみました。

どうしたことでしょう。十四ありました。子どもは 十三人しか いないのに、かおの あとが 十四あるわけが ありません。

きっと、いつものみえない 神さまが、子どもたちの そばに きて いるのです。そして 神さまも、子どもたちと いっしょに かおを ゆきの上に うつしたのに ちがいありません。

いたずら書きの 子どもたちは、かおをみあわせながら、目と 目で、神さまを つかまえようよ、と そうだんしました。

(新美南吉作 子どものすきな神さま)

【5】子どもたちは、かおをみあわせながら 目と 目で どんな そだんを しましたか。
□の中に かきましょう。

【1】子どもの すきな 神さまが いつも していることを えらんで ○をつけましょう。

() 村で 小とりやけものと あそぶ
() 森の中で 小とりやけものと あそぶ
() 村で すきな 子どもたちと あそぶ
() 森の中で すきな 子どもたちと あそぶ

【2】ゆきが どっさり ふつた つぎのあさ、子どもたちは どこで あそんでいましたか。□の中には かきましょう。

【3】子どもたちは、どのようにして ゆきの上に かおを うつしましたか。□のところを よんで □の中には かきましょう。

を かがめて

かおを

ゆきにおしあてた

【4】子どもたちは、なぜ、神さまが そばに きて いると思つたのですか。あてはまるものに ○をつけましょう。

() 子どもは 十三人しか いないのに、かおの あとが 十四 あつたから
() ゆきの 上に かおを うつして いる 神さまの すがたが、みえたから
() 森の おくから、神さまの 声が きこえたから

読む

ようすやこうどうを よみとろう(2)
「子どものすきな神さま②」

名前

※もとの文しょうの一語をかえています。
「おにごっこしよう。」

「しようよ、しようよ。」

そうして、ひとりの子がリーダーになり、あと
の十二人が、一つにならびました。

「きをつけ。ばんごう。」

リーダーがごうれいをかけました。

「一ツ。」

「二ツ。」

「三ツ。」

「四ツ。」

「五ツ。」

「六ツ。」

「七ツ。」

「八ツ。」

「九ツ。」

「十ツ。」

「十一ツ。」

「十二ツ。」

と十二人の子どもたちがばんごうをいつてしま
いました。そのとき、だれのすがたもみえない
のに、十二ばん目の子どものつぎで、

「十三ツ。」

といつた人がいました。玉をころがすようなよ
いこえでした。

そのこえをきくと子どもたちは、

「それ、そこだッ。神さまをつかまえろッ。」

といって、十二ばん目の子どものよこをとりま
きました。

神さまはめんくらいました。いたずらな子ども
のことだから、つかまつたらどんなめにあうかし
れません。

ひとりの子どものまたの下をくぐつて、神さま
は森へにげかれました。けれど、あまりあ
わてたのでくつをかたほうおとしてきてしま
いました。

子どもたちはゆきの上から、まだあたたかい
小さな赤いくつをひろいました。

「神さまはこんな小さなくつをはいてたんだ
ね。」

といってみんなでわらいました。

そのことがあつてから、神さまはもうめつた
に森から出てこなくなりました。それでもや
り子どもがすきなものだから、子どもたちが森へ
あそびにいくと、森のおくから、「おおい、おおい。」
とよびかけたりします。

(新美南吉作 子どものすきな神さま)

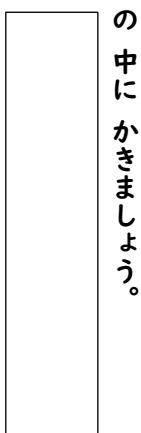


人

【2】「十三ツ。」といつたのはだれですか。□
の中にかきましょう。



【3】神さまはどんなくつをはいていました
か。□の中にかきましょう。



くつ

【4】「子どものすきな神さま①、②」をよんでも
心にのこったところをえらび、かんそう
をかきましょう。



読む

ようすやこうどうを よみとろう (3)

「小人のくつ屋さん①」

名前

あるところに、くつ屋さんがおりました。自分がわるいことをしたわけでもないのにとにかくお金がなくて、一足のくつを作るだけの皮しかもうのこっていません。あるよる、あくるあさにしたてようと皮をたちきつておきました。^{※1} ころねのよい人でしたから、ひそやかにベッドでよこになりながら、おいのりをとなえつつ、ねまりにおちます。あさになつて、おいのりしたあとで、さてしごとにとりかがろうとすると、気づけば一そくのくつはとうにしあがりでき上がつていて、つくえにちょこなんとたてられているのです。びっくりたまげた **〔その人はなんともいえずに、まぢかに見てみようと、くつを手にとりました。すばらしいできのくつで、ぬい目もすんぶんまちがいなく、まるで、^{※2}たくみの手になるものよう。まもなく、おきやくさんがやつてきましたが、もう大まんぞくでしたので、よけいにお金をしらつてくれました。つまりこんどは二そくぶんのくつが作れるほどの皮がかえたわけです。そしてよるになつて、あくるあさ、気もちもあらたにしたてようと皮をたちきつておきました。ところがその手はかからずじまい。というのも、おきたときにはもうでき上がりついたからで、おきやくさんにとつてももうしぶんなし、お金がたんまりふところにはいつて、つぎには四そくぶんのくつが作れるだけの皮が^{※3}あがなえました。さらにあくるあさはやくには、しあがつた四そくのくつ、こんなちようしがどんどんつづいていきます。よるにたちきつておけば、あさにはかつてにでき上がりつて。たちまちくらしもたつようになり、とうとうお金もちになりました。**

(グリム兄弟作 大くぼ ゆう やく 小人のくつ屋さん)

^{※1} こころね：本とうのこころ^{※2} たくみ：じょうずな人^{※3} あがなう：手に入れる

【1】 **〔その人とはだれですか。あてはまるものに○をつけましょう。〕**

() くつ屋さん

() おきやくさん

() 小人

【2】 **〔その人が「びっくりたまげた」のはなぜですか。あてはまるものに○をつけましょう。〕**

() 一そくのくつをつくるだけの皮しかなかつたから

() 気づけば一そくのくつができ上がっていたから
() おきやくさんがよけいにお金をしらつたから

【3】 **〔のようにおきやくさんが大まんぞくしてよけいにお金をしらつてくれたのはなぜですか。□の中にあてはまることばを書きましょう。〕**

できるくつで、

ぬい目もすんぶん

まるで、たくみの手になるもののようにだつたから

【4】 **〔くつ屋さんが、お金もちになつたのはなぜですか。あてはまるものに○をつけましょう。〕**

() 自分で作ったくつがたくさんうれたから

() いつのまにかでき上がつたくつがたくさんうれたから
() おきやくさんにもらつたくつがたくさんうれたから

読む

ようすや こうどうを よみどろう (4)
「小人のくつ屋さん^②」

名前

クリスマスもちかいあるよる、皮もたちおわつたくつ屋さんは、ベッドに入るまえにおくさんにはいいました。

「こんやためしにねずのばんをして、どなたが手だけしてくれているのか、たしかめてみるのはどうかね。」

おくさんもうなずいて、あかりもつけておくことにしました。へやのすみにひそんで、じぶんたちのまえにはふくをかけておいて、そこからぞきみます。するとよがふけたころ、目にとびこんできたのは、ふたりの小人さん、ふくはなにもきておらず、くつ屋さんのしごとづくえのまえにじんどると、したくずみのしごとにとりかかり、まずはぬつて、ちくちくとんとん、小さなゆびで^{※1}たくみにすばやく、くつ屋さんも目をはなせず、^{※2}どぎもをぬかれてしまいました。手をとめないまま、やがてでき上ると、つくえの上にちょこなんとたてて、ぴょんととびおりてはしりさっていきます。

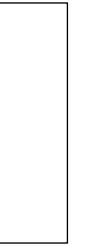
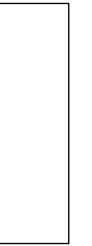
あくるあさ、おくさんがくつ屋さんにいうには、「あの小人さんたちが、わたしたちをお金もちにしたのですから、おれいをしなくちゃなりませんよ。はしりまわっているのに、なにもみにつけらものがありませんから、さむそうでかないません。よろしいですか、ちいさな下ぎに、上ぎに、それからチヨツキとズボンをぬいますよ。それに一そくずつ、くつ下もぬいますから、あなたはそれに、くつを一そく、作つてあげなさいな。」

だんなさんも、ぜひにということで、そのよる、しじごとをやり終えると、たちきっと皮のかわりに、こころづくしのおりものを、つくえにそろえておいて、小人たちがどうふるまうのか、見どけることにしました。

(グリム兄弟作 大くぼ ゆうやく 小人のくつ屋さん)

*¹ たくみ … ジょうずな人

*² どぎもをぬく … びっくりさせる



たしかめてみるため

【1】くつ屋さんを手だけしていたのは、だれですか。□の中にかきましょう。

【2】
【3】のところをよんでも小人たちがしたことのじゅんに1、2、3のすう字をかきましょう。

() 小なゆびでたくみにすばやくぬう。
() しべどづくえのまえにじんどる。
() できあがったものをつくえの上にたてる。

【4】の「いろいろづくしのおりもの」とはどうなものですか。□の中に六つかきましょう。

読む

ようすや こうどうを よみとろう (5)
「小人のくつ屋さん③」

名前

よも ふけて、とびこんできた 小人さんたちが、さあしことと おもったところ、見つかるのは 皮のきれ ではなく、ぴったり 体に あつた 小ぎれいな ※おめしもの。小人も びっくり たちすくみましたが、たちまち うれしくなつて ためして みます。そわそわどたばた、すてきなおめしものを 手にとつて きこむと、うたを うたつて くれました。

【1】 小人さんたちは おめしものを きこんでいるとき どんな気もちでしたか。あてはまるものに〇を つけましょう。

() びっくり
() うれしい
() かなしい
() いろいろ

さ ぼくらも おしゃれさん!
もう くつ屋は にあわない!

【2】 _____をよんでも 小人さんたちの ようすにあてはまる ことばを [] の中に かきましょう。

しながら

そして 小人さんたちは、足ぶみ しながら おどりまわり、いすに つくえに とびはねて、とうとう

戸口から おどり出で いきました。そのとき いらい、

小人さんたちは 出でこなく なりましたが、生きて いるあいだ、くつ屋さんは なんでも うまく いきましたし、やることも みんな 大せいこう でした。

(グリム兄弟作 大くほ ゆう やく 小人のくつ屋さん)

つくえに []
、 いすに []
とうとう、戸口から []
いきました

【3】 「小人のくつ屋さん①、②、③」を よんでも心にのこった ところを えらび、かんそくをかきましょう。

* おめしもの…きているもの、ふく